

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の2第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年9月30日

【事業年度】 第50期（自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日）

【会社名】 イハラケミカル工業株式会社

【英訳名】 IHARA CHEMICAL INDUSTRY CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長執行役員 望月 眞佐志

【本店の所在の場所】 東京都台東区池之端一丁目4番26号

【電話番号】 03-3822-5223（代表）

【事務連絡者氏名】 執行役員人事総務部長 大石 裕

【最寄りの連絡場所】 東京都台東区池之端一丁目4番26号

【電話番号】 03-3822-5223（代表）

【事務連絡者氏名】 執行役員人事総務部長 大石 裕

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
（東京都中央区日本橋兜町2番1号）

1 【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

平成27年1月26日に提出いたしました第50期（自平成25年11月1日至平成26年10月31日）有価証券報告書の記載事項の一部に誤りがありましたので、これを訂正するため有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

2 【訂正事項】

第一部 企業情報

第2 事業の状況

6 研究開発活動

第5 経理の状況

1 連結財務諸表等

（1）連結財務諸表

注記事項

（金融商品関係）

（セグメント情報等）

関連情報

3 【訂正箇所】

訂正箇所は____を付して表示しております。

第一部 【企業情報】

第2 【事業の状況】

6 【研究開発活動】

（訂正前）

当社グループは、クミアイ化学工業株式会社と共同で開発している新農薬の原体製造を担っており、新規製造法、新規技術を開発しコスト競争力のある製品に仕上げるべく研究活動を実施しております。また、それらの有機合成技術を生かして他社開発の農薬及び医薬の原料、中間体、並びに機能材料中間体の製造研究などに取り組んでおります。更に、分析業務では、信頼性を保証するG L P制度に沿って運営されており、農林水産省より適合施設としての認定を受けております。

当連結会計年度における当社グループ全体での研究開発要員数は88名であり、研究開発費の総額は19億7千万円であります。

セグメント別の研究開発活動を示すと次のとおりであります。

農薬事業

新農薬の創製研究につきましては、クミアイ化学工業株式会社と共同で設立した株式会社ケイ・アイ研究所は新規化合物の合成を、クミアイ化学工業株式会社は生物評価・製剤化検討を、そして、当社は有望化合物の工業的製造法の研究を、それぞれ担当しております。それら会社間の有機的かつ効率的な運営に努める中、選出された新農薬を、クミアイ化学工業株式会社と共同で開発しております。ここ数年、水稲用除草剤である「ピリミスルファン」、畑作用除草剤である「ピロキサスルホン」そして園芸用殺菌剤「ピリベンカルブ」が、次々と農薬登録を取得し、既に製品として市場で売られ経営に貢献しております。現在、それぞれ、新規製品の拡充及び適用作物・適用国の拡大等を進め、更なる拡販につとめております。又、開発しておりました水稲用除草剤「フェノキサスルホン」は、平成26年に、日本において、芝用、水稲用の登録が認可され、販売の最大化に向け取り組んでおります。更に、クミアイ化学と共同で新農薬の創製研究を継続しており、早期開発に向け、鋭意努力している次第です。

化成品事業

クロロトルエン・クロロキシレン系化学品、医農薬中間体、精密化学品、産業薬品を主とした化成品事業につきましては、当社グループの保有原料及び独自の技術・設備を生かした市場競争力のある製品開発に取り組んでおります。ウレタン用アミン系硬化剤、及びその関連化学品につきましては改良研究、試験販売を行いながら用途拡大に努めております。

その他

ファフィア酵母(飼料添加剤)等のバイオ製品につきましては、発酵バイオ技術を利用した新製品の開発に取り組んでおります。

（訂正後）

当社グループは、クミアイ化学工業株式会社と共同で開発している新農薬の原体製造を担っており、新規製造法、新規技術を開発しコスト競争力のある製品に仕上げるべく研究活動を実施しております。また、それらの有機合成技術を生かして他社開発の農薬及び医薬の原料、中間体、並びに機能材料中間体の製造研究などに取り組んでおります。更に、分析業務では、信頼性を保証するG L P制度に沿って運営されており、農林水産省より適合施設としての認定を受けております。

当連結会計年度における当社グループ全体での研究開発要員数は88名であり、研究開発費の総額は19億7千万円であります。

セグメント別の研究開発活動を示すと次のとおりであります。

農薬事業

新農薬の創製研究につきましては、クミアイ化学工業株式会社と共同で設立した株式会社ケイ・アイ研究所は新規化合物の合成を、クミアイ化学工業株式会社は生物評価・製剤化検討を、そして、当社は有望化合物の工業的製造法の研究を、それぞれ担当しております。それら会社間の有機的かつ効率的な運営に努める中、選出された新

農薬を、クミアイ化学工業株式会社と共同で開発しております。ここ数年、水稲用除草剤である「ピリミスルファ
ン」、畑作用除草剤である「ピロキサスルホン」そして園芸用殺菌剤「ピリベンカルブ」が、次々と農薬登録を取
得し、既に製品として市場で売られ経営に貢献しております。現在、それぞれ、新規製品の拡充及び適用作物・適
用国の拡大等を進め、更なる拡販につとめております。又、開発しておりました水稲用除草剤「フェノキサスルホ
ン」は、平成26年に、日本において、芝用、水稲用の登録が認可され、販売の最大化に向け取り組んでおります。
更に、クミアイ化学と共同で新農薬の創製研究を継続しており、早期開発に向け、鋭意努力している次第です。

当連結会計年度における農薬事業の研究開発費は15億4千4百万円です。

化成品事業

クロロトルエン・クロロキシレン系化学品、医農薬中間体、精密化学品、産業薬品を主とした化成品事業につ
きましては、当社グループの保有原料及び独自の技術・設備を生かした市場競争力のある製品開発に取り組んで
おります。ウレタン用アミン系硬化剤、及びその関連化学品につきましては改良研究、試験販売を行いながら用途拡大
に努めております。

当連結会計年度における化成品事業の研究開発費は4億4百万円です。

その他

ファフィア酵母(飼料添加剤)等のバイオ製品につきましては、発酵バイオ技術を利用した新製品の開発に取
組んでおります。

当連結会計年度におけるその他の研究開発費は2千1百万円です。

第5 【経理の状況】

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【注記事項】

(金融商品関係)

2 . 金融商品の時価等に関する事項

(訂正前)

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません(注)2 参照)。

前連結会計年度(平成25年10月31日)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	6,443	6,443	-
(2) 受取手形及び売掛金	8,616	8,616	-
(3)有価証券及び投資有価証券 其他有価証券	8,813	8,813	-
資産計	23,874	23,874	-
(1) 支払手形及び買掛金	3,548	3,548	-
(2) 短期借入金	400	400	-
負債計	3,948	3,948	-
デリバティブ取引	-	-	-

(注)1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項
省略

当連結会計年度(平成26年10月31日)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	8,713	8,713	-
(2) 受取手形及び売掛金	9,781	9,781	-
(3)有価証券及び投資有価証券 其他有価証券	10,368	10,368	-
資産計	28,864	28,864	-
(1) 支払手形及び買掛金	3,891	3,891	-
(2) 短期借入金	620	620	-
(3) 長期借入金(1年内返済予定の 長期借入金含む)	297	297	-
負債計	4,808	4,808	-
デリバティブ取引	-	-	-

(注)1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項
省略

(注)2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	平成25年10月31日	平成26年10月31日
非上場株式等	117	117

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため「(3)有価証券及び投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

(注)3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

省略

(注)4. 借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

省略

(訂正後)

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません(注)2 参照)。

前連結会計年度(平成25年10月31日)

(単位: 百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	6,443	6,443	-
(2) 受取手形及び売掛金	8,616	8,616	-
(3)有価証券及び投資有価証券 其他有価証券	8,813	8,813	-
資産計	23,874	23,874	-
(1) 支払手形及び買掛金	3,548	3,548	-
(2) 短期借入金	400	400	-
負債計	3,948	3,948	-
デリバティブ取引	-	-	-

(注)1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

当連結会計年度(平成26年10月31日)

(単位: 百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	8,713	8,713	-
(2) 受取手形及び売掛金	9,781	9,781	-
(3)有価証券及び投資有価証券 其他有価証券	10,368	10,368	-
資産計	28,864	28,864	-
(1) 支払手形及び買掛金	3,891	3,891	-
(2) 短期借入金	620	620	-
(3) 長期借入金(1年内返済予定の 長期借入金含む)	297	297	-
負債計	4,808	4,808	-
デリバティブ取引	-	-	-

(注)1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

省略

(注)2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位: 百万円)

区分	平成25年10月31日	平成26年10月31日
非上場株式等	117	117
非連結子会社及び関連会社株式	3,631	4,368

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため「(3)有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(注)3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額
省略

(注)4. 借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額
省略

(セグメント情報等)

【関連情報】

(訂正前)

前連結会計年度(自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

省略

2 地域ごとの情報

(1)売上高

(単位:百万円)

日本	米州	欧州	アジア アフリカ州	大洋州	計
12,357	5,360	3,949	4,105	4,561	30,334

(注)売上高は最終顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2)有形固定資産

省略

3 主要な顧客ごとの情報

省略

当連結会計年度(自 平成25年11月1日 至 平成26年10月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

省略

2 地域ごとの情報

(1)売上高

(単位:百万円)

日本	米州	欧州	アジア アフリカ州	大洋州	計
13,385	9,303	5,072	3,787	5,186	36,735

(注)売上高は最終顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2)有形固定資産

省略

3 主要な顧客ごとの情報

省略

(訂正後)

前連結会計年度(自 平成24年11月1日 至 平成25年10月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

省略

(1)売上高

(単位:百万円)

日本	米州	欧州	アジア アフリカ州	大洋州	計
12,357	5,360	3,949	4,105	4,561	30,334

(注)1. 売上高は最終顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2. 「米州」「欧州」「アジアアフリカ州」「大洋州」については一区分として管理しており、各国の外部顧客への売上高を区分することは困難であるため、国ごとの金額は記載しておりません。

(2)有形固定資産

省略

3 主要な顧客ごとの情報

省略

当連結会計年度（自 平成25年11月 1 日 至 平成26年10月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

省略

2 地域ごとの情報

(1)売上高

（単位：百万円）

日本	米州	欧州	アジア アフリカ州	大洋州	計
13,385	9,303	5,072	3,787	5,186	36,735

(注) 1．売上高は最終顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2．「米州」「欧州」「アジアアフリカ州」「大洋州」については一区分として管理しており、各国の外部顧客への売上高を区分することは困難であるため、国ごとの金額は記載しておりません。

(2) 有形固定資産

省略

3 主要な顧客ごとの情報

省略